

ななかま

プリンストン日本語学校新聞



平成24年度 No.24号

平成24年11月4日

文責 長尾重範

フランケン 荒れ狂うまま 闇に耐え
野分来て トウモロコシの 鳴る広野

ハリケーンのために休校（秋祭り中止）

行事予定表

11月11日 18日 表現学習発表会
13:20～ サイエンス棟 102号教室
12月9日 学芸会 学習発表会
12月16日 本年最終日

広報係からのお知らせ

11月11日に学校マスコットの審査会を行います。
今からでも間に合うので、応募をしてください。

こども絵画コンクール展覧会 11月9日～18日
NY 紀伊国屋書店 NY 本店

夏休み明けに応募いただいた中から、次の人の作品が展示されます。

ウルフサマンサ、ワッツ記生、小川花、
沼田有樹、吉平記子

「ハリケーン サンディ」

28日は朝から台風前夜のようなゆるい風が吹いていましたが、幸い4校時まで授業をすることができました（日文は中止）。

29日になると風が強くなり昼過ぎには台風のような強い風が吹き始め夕方には強烈な雨風になり18時過ぎには停電になり、21時ごろには猛烈な暴風雨に見舞われました。22時ごろに風雨の力が弱まり少しずつ勢力が遠のくのがわかりました。このハリケーンはエネルギーがけた外れに大きく（ヨーロッパの面積ほどの範囲に影響！）、ゆっくりと進んだために多くの被害をもたらしたようです。事務所周辺もたくさんのお木々が根こそぎ倒されました。29日は一日中ハリケーンの勢力下であって、強烈な雨風が吹き続けました。NJ州南部に上陸する直前には940hPaまで気圧が下がっていました。NY株式市場も学校のほとんども29、30ともお休みになりました。ハリケーンが過ぎてもしどよりとした空模様で雨がずっと降っていて、青空が戻ってきたのは30日の夕方です。台風とハリケーンは大陸の東南の海で発生することです。共通していますが、個性が少し異なっているように感じました。それにしても多くの被害をもたらしたすさまじいハリケーンサンディでした。停電が広範囲に及び生活がままならない状況のために、11月4日は休校になりました。

心シリーズ（2） 「心を大きく生きよう」

地球史カレンダーでは、地球が誕生（46億年前）したのを元旦0時として、原始バクテリアが誕生（35億年前）したのは3月下旬、恐竜が出現（2億年前）したのは12月14日頃、霊長類が出現（5400万年前）したのは12月26日17時30分頃、新人が登場（4万年前）したのが12月31日の23時55分、4大文明が発祥したのが23時59分26秒、江戸時代の初めは23時59分57秒になります。気が遠くなりそうな長大な時間の中のほんの一瞬に私は生きています。さらに、星座や世界地図も仮のものをとらえて表現しているに過ぎないものを、私の尺度では定まったものとして理解していません。星空も地球上の陸地の形も変わり続けていて、とどまり続けているものは何もありません。地球に生命が誕生したときには熱くて空気もなく当然人間はいませんでした。バクテリアが誕生し生物が進化を続けて、ある時にはじめて人類の祖先が出現しました。それから人類が世界中で繁栄するようになり、現在のさまざまな人種や民族がそれぞれの違いを強調したとしても、地球史カレンダーでは大晦日の数時間の変化にすぎないことになります。それなのに目の前の利害の対立で殺しあうことができごとが多すぎるように思います。

私が感嘆するのは、科学の長足の進歩によって宇宙のことがよくわかるようになったことです。とりわけハッブル望遠鏡（NASAの人工衛星）などによってもたらされる宇宙の映像です。なかでも銀河（地球が属している天の河銀河の仲間）や星雲などの多様な情報から星の誕生や爆発などのさまざまな宇宙の姿を見せてくれることです。この頃天の河を見られるところが少なくなっていますが、空気がきれいで暗闇が確保できるところで宇宙の広大さを確かめることは、生きていくことの素晴らしさを実感できる機会になります（双眼鏡があれば肉眼とは比べ物にならないくらいたくさん星を見ることが出来ます）。

目の前の大変さから逃げるのではなく、少し心をリラックスさせて、大きく大きく地球や宇宙などを思い描いて、自分がその広大な宇宙につながっているかけがえのない存在なのだと思うとき、新しい気持ちになれると思っています。因みに、今、明けの明星（金星）と木星、シリウスなどが共演する未明の空がきれいですよ。